

次世代のリーダーをめざして

夕張高校
チャレンジ・モア・スピリッツ
おかげさまで第十号

行つてきます！日本の次世代

リーダー養成塾！

7月26日～8月8日の日程で開かれる「高校生のための日本の次世代リーダー養成塾」に参加する2年生の山崎さんに話を聞いた。



今回話を聞いた山崎さん。バドミントン同好会とボランティア同好会に所属している2年生。「ボランティア同好会で夕張キャンプにちてふれあい、知らない人と新たに関わっていくことの大切さを実感しました。」と語る山崎さんの将来の夢は、「自らイベントなどを企画して誰かを楽しませることを仕事にする」ことだという。

日本の次世代リーダー養成

塾ってなんだ？

九州での2週間にわたる集団生活の中で、各界リーダー（知事、大学教授、社長など）による講義のほか、参加者である高校生自身による日本、世界のあらゆる事象について議論し合うセッションなど、さまざまな経験を通して未来を担う次世代のリーダーとしての素養をつける塾である。参加には各県単位での選考にパスしなければならぬが、夕張高校としては3年連続の参加となった。

自分の世界を広げたい！

記者…今回リーダー塾に参加しようと思ったのはどうして？

山崎さん（以下敬称略）…昨年度参加した小笠原さんの「二流の方々の話を聞いて、考え方が変わった」という参加後の発表を見て、生まれてから今まで夕張の外に出ずに育ってきたことで、自分の中には考え方の偏りがあるのではないかと思うようになりました。

知らない人がたくさんいる中に行つて、いろんな分野の二流の方々の話を聞いて、新しい考え方に触れ、自分の世界を広げたいと感じ、参加しようと思いました。

記者…全国から知らない人が集まってくるのだから、人間としての幅をうんと広げるチャンスだね！



昨年の様子。全国各地から次世代のリーダーを志す高校生が集まり、切磋琢磨した。集団生活や議論の中で、かけがえのない仲間となる。

選考があつたんだって？

記者…参加するのに選考があるって聞いたけど、どんなだった？

山崎…書類選考の後に、道庁に行つて、他の受験者と共にグループディスカッションの試験がありました。

まず、与えられたテーマに沿つて、5分考えて、2分以内に発表するんです。そのあとでフリーディスカッションをするのですが、司会者を立てる・立てないなど、ディスカッションの進行についても受験者で話し合つて決める形でした。

記者…進め方も高校生同士で決めるんだ！ちなみにどんなテーマだった？

山崎…「情報化社会について」でした。初対面の受験者同士でも楽しくやれたので、その点でも良い経験ができました。

記者…書類選考とかはどう準備したの？

山崎…書類選考では自分がどのような大人になりたいか、「理想の大人像」などがテーマでしたが、校長先生にも添削などの指導をしていただいて。締切が短く、結構あわただしい感じで頑張りました（笑）

私はこう思う！理想の大人像

記者…ちなみに、理想の大人像についてはどんなことを書いたの？

山崎…おおざっぱにいうと柔軟性がある人。今求められているリーダー像は、周囲を引っ張っていく力と、周囲を支える土台としての力との両面を持ちあわせた上で、かつ即座にその場で臨機応変に「柔軟」に対応できることが重要だと思つたので、そのようなことを書きました。

記者…しっかりしているなあ。

「地域ともっと関わりたい」と話していたのが印象的でした。山崎さん、学校祭の準備で忙しいところありがと！



カフェで接客 ようこそタ張へ！

タ張高校 チャレンジ・モア・スピリッツ 第十二号

HAMAMATSU Cafeに タ張高校生

8月6日～10日の期間で、幸福の黄色いハンカチ
想い出ひろば内HAMAMATSU Cafeで、タ張
高校就職・専門学校進学コースの生徒らが接客実
習を行った。

「総合実践」の授業の環として、生徒たちは基本
的な敬語やマナーについて学んだのち、店頭に立つこ
ととなった。

旅の疲れにコーヒーと 石炭マドレーヌを



記者に石炭マドレーヌを提供する有岡くん。
学生生活を支えてくれる親に感謝していると
言っていたのが印象的であった。
マドレーヌの味のほうは、見た目の真っ黒さと
は対照的に、かんきつ類の香味によるさわや
かな甘みが特徴的で、なかなか美味。

同カフェでは、水出しによるコーヒーのほか、市内
菓子店「お菓子のふじ」とタ張高校生が協同企画開
発した「石炭マドレーヌ」などを提供した。コアパ
ウダーを用いて、タ張のイメージを石炭色として表
現している。石炭マドレーヌは、6月に開催されたO

NSENガストロノミーウォーキングでも提供され
た。

高校生ブランド効果？ 20個すぐ完売に

高校生と市内菓子店との共同開発ということ
や、実際に高校生が販売に立っているということも
あつてか、石炭マドレーヌは幸福の黄色いハンカチ想
い出ひろばを訪れた人から次々と買われていき、日
20個限定のところ、午後1時を待たずして完売と
なった。



次つぎと売れていく石炭マドレーヌ。完売した
後も、コーヒー飲んでひと休みしていきませ
んか、と呼び込みを行った。



はにかんだ笑顔の仙北くん。カフェへの
呼び込みの最中に一枚。

接客は心のふれあい

来店客のすべてが市外からの訪問であり、そして
そのほとんどが道外からの旅行者であった。仙台か
ら来た母娘、バイク旅行者、九州から北海道に移住
して間もない夫婦など…タ張高校生は慣れない中、
ぎこちない接客ではあつたものの、来店客はその姿
に暖かいまなざしと応援の言葉をかけていた。
頑張れ、若人よ！



横浜から来た東城さん父娘と記念撮影。現在大学4年生の娘さん（中
右）は日本ハムファイターズのファンということで、同じく日ハムファン
である地域おこし協力隊の関口隊員（右）と意気投合する一幕も。

読者のみなさんも、
HAMAMATSU
カフェでコーヒーブ
レックしてみては？
おいしいコーヒーで
した。



続・次世代のリーダーをめざして

夕張高校
チャレンジ・モア・スピリッツ
第十二号

行ってきました！

日本の次世代リーダー養成塾

7月26日～8月8日の日程で開かれた「高校生のための日本の次世代リーダー養成塾」に参加する山崎さんへの事前インタビューの内容については、第十号(広報ゆーぱり8月号掲載)にて報じているところである。

今回のチャレンジモアスピリッツでは、山崎さんが実際に参加して見たこと、感じたことにフォーカスを当てていく。

どんな内容だったの？

山崎さん(以下敬称略)「各界のリーダーの講義やアジアハイスクールサミットという高校生同士がテーマについて議論して、それを小学生にむけて講義するなどの内容でした。」

記者「講義ではどんな話が聞けた？」

山崎「歴史についてや、生き方そのものについてなどいろいろでした。映画プロデューサーからの講義もありました。各講義の後の質問時間でも、すごい量の手が挙がっていて、圧倒されました。」

記者「印象に残った講義は？」

山崎「『ぐるなび』の会長である滝久雄さんの講義で、リーダー憲法の話が印象的でした。」

記者「リーダー憲法？」

山崎「リーダーに求められる考え方を憲法のようにしたもので、『最も早く、最も良く、二 人間を好きになろう、人間社会も好きになろう 三 お互いの文化を尊重しよう』というものでした。どの考え方も人間として生きていく中で大事だなと思いました。」



リーダー塾に参加した山崎さん(左)仲間たちとの一枚

先生は「いやなことは理解しないと成長できない」「損か得かではなくて、自分が成長できるかどうか」というお話もしてくださって、最近はいやなことがあればどうにか逃げようとする考えのほうが多い中で、いやなことを避けるに、(理解という形で)立ち向かおうとする姿勢はすごくいいなと思いました。

みんなに聞いてほしい！

山崎「中でも武藤杜夫さん(元法務教官)少年院の教官の話は、自分の今までの生き方とか考え方が恥ずかしくなるほどいいお話で、いくつになっても忘れてはいけない話だと思いました。ぜひみんなに聞いてほしいので、まずは校内発表で生徒皆の心をつかんで、市役所も動かして、キセキの授業の一環で呼びたいと思っています。」

記者「呼べたらいいね、頑張つて！武藤先生の話の内容はあえて書きません！」

伝える難しさ

山崎「『アジアハイスクールサミット』では、小学生に対して講義するという取り組みで、小学生に分かりやすく説明することの難しさだとか、興味を引くことの難しさを経験しました。夜の12時まで準備に熱中したのも思い出です。時間をかけてみんなと話し合っ作って行くのは大変でしたが、その分達成感が大きかったです。」

記者「どんな講義をしたの？」



議論中の山崎さん(右)

山崎「働き方改革や労災などの、労働問題についてです。聞く子どもに将来に対して希望をもってもらえるような講義を、50年後の未来の話を軸にしました。50年後の未来というものが難しく、どうしても現状の課題に対する対応というところから話が進まずに苦勞しました。」

自らの変化

山崎「行く前は、本当に知らない人とかかわるのが苦手でしたが、『リーダー塾』を通して、知らない人とかかわるのが面白くなったし新しい人と触れ合っ、異なる考え方を学ぶと人は成長できると思うようになりました。友達もたくさんでき、地震の時はお見舞いの連絡をくれて、うれしかったです。」

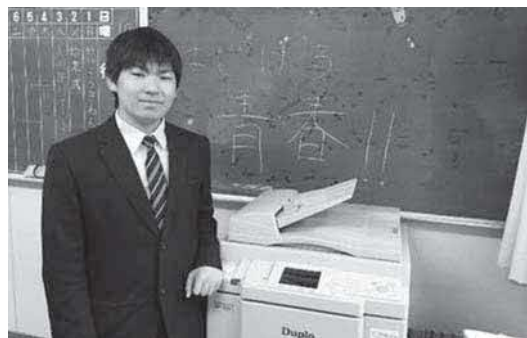
行く前に見えていなかった自分の弱点も見えたので、そこを改善していくために頑張りたいと思っています。」

話し方から、本当に充実した経験だったんだな、とわかりました。これからも存分に活躍してください！



生徒会ってどんなところ？北上前会長回顧録

夕張高校
チャレンジ・モア・スピリッツ
第十三号



今回話を聞いた北上君



よさこい演舞の様子

この頃の生徒会とはどのようなところなのか？ 今回のチャレンジ・モア・スピリッツでは、この10月で新体制に生徒会を引き継いだ前会長の北上君にいろいろと話を伺った。

生徒会ってどんなところ？

記者…夕張高校の生徒会はこんなことをするところですか、というのを簡単に言うところ？
北上君（以下敬称略）…行事の基本的な部分、土台を考えて、高校の各委員会などに指示するところ、だと思います。

記者…主に行事を仕切る、運営する会ということなんだね。生徒会ならではの苦労はどんなのだった？

北上…苦労といえば、行事のあり方や内容などについて学校皆が納得できる形にすることが大変でした。意見の食い違いなどもあって（笑）

記者…なるほどねえ。みんなが納得できる形にするのはなかなか難しいものがあるよね。
北上…企画のあり方もそうですけど、納得してくれるように説明するにはどうしたらいいかということに苦労しましたね。

一番印象に残っているのは、

学校祭

記者…1年間の会長任期の中で、一番印象に残っていることは？

北上…そうですね、学校祭が一番最初にやる大きな行事なので、一番印象に残っています。先輩がいなくなっちゃってできるか、とかすごく不安でした。

記者…先輩から受け継いだものもありつつ、変化もあった学校祭だったね。よさこいの踊りの振り付けも昨年と変わっていたよね。

北上…振り付けを変えなかつたらクオリティは上げられるけど、地域の方に飽きられてしまふんじゃないかという声が上がって、校内アンケートを取ったんですね。それで、去年よりも簡単で、しかも派手に見せられる踊りが良いということ、で、南中ソーランを採用しました。

記者…アンケートの結果はどんな感じだったの？

北上…振り付けを変える派がわずかに変えない派を上回って…ほとんど半々でした。

記者…意見がほとんど拮抗している中で、変えていくのは苦労はあったと思うけど、みんなにとつていい経験だったね。観客の反応はどうだったの？

北上…上々でした。結構踊りがダイナミックに見えたようで、感動したという感想をくださいました。

記者…踊りを変えるところから始めて、住民の皆さんを感動させて、結構なことじゃないですか！

やってよかった生徒会

記者…生徒会をやったよかったことは？

北上…会長になって、地域の方とかかわる場面が多くて、愛されている高校だということがわかって…外からどう見えているか、など学校について本当のことが知れたのがよかったと思います。

中学生の時は、正直に言うところ入るのが簡単で（笑）あまりいい人もいないのかなと思つていたんですけど、いざ入って2年生から生徒会をやってみると、先生も生徒もいろいろな相談に乗ってくれるし意見も言ってくれるいい人ばかりで、すごく生徒会活動がやりやすかったです。

記者…それはよかったね！入ったり、やつたりしてみないとわからないことであるからねえ。

北上…生徒会は団結力が結構高くて、会長としても仕事しやすいかつたし、行事の企画の時も生徒会内で争いがほとんどなかったんです。これからの生徒会も団結力を大事にしてくれれば、学校全体もさらにそうやっていくと思うので、後輩には期待しています！

「夕張高校はもうひとつの帰れる場所、親のような感じのする学校」と言っていた北上君。夢であるプログラマー目指して頑張つて！



おじやりやれ！八丈短期留学

夕張高校 チャレンジ・モア・スピリッツ 第十四号

北海道を遠く離れた島で5日間、生徒たちが感じたことは。

今回のチャレンジ・モア・スピリッツでは、10月4日から8日にかけて東京都八丈島で行われた短期留学を終えた宮岸君、野田君、藤浦さん（以下敬称略）へのインタビューを中心に、その内容に迫ろうと思う。

八丈短期留学とは

夕張高校と東京都八丈高校との交流を目的とした「夕丈（ゆうじょう）プロジェクト」の一環として毎年実施。同島住民や高校生との交流を図り、夕張とは異なる文化に触れながら見識を深めている。

今回の短期留学では、同島の観光振興をスキューバダイビングの体験をしながら学んだほか、八丈高校の生徒に対する夕張や夕張高校の取組みの紹介プレゼン、食品製造などの授業の交流、生徒それぞれの研究テーマに沿った視察など盛りだくさんであった。

同プロジェクトでは、その一環として八丈高校の生徒も夕張を訪れている（広報ゆうぱり9月号の「キラリ！」で紹介）ほか、八丈島の特産品であるフルーツレモンの提供を受け、夕張高校で商品開発を行ったこともある（広報ゆうぱり3月号の「チャレンジ・モア・スピリッツ第六号」で紹介）。

潜在的授業があるの？

記者…今回行くことになったきっかけは？

宮岸…以前八丈高校の生徒が夕張高校に来て、八丈島のことについて色々教えてもらって興味が出て、自分の目で見たいと思ったというのと、夕張のことを今度は自分が八丈高校の生徒に伝えたいと思ったことがきっかけです。

記者…なるほどねえ。実際に八丈島を自分の目で見てなにか感じた？

宮岸…夕張と共通しているところとして、夕張も八丈島も人口が少ないからか、高校と地域のつながりが深いと思いました。八丈島では地域の企業が高校生にスキューバダイビングの経験を、ということとで高校生向けの体験プログラムを立ち上げたり…これは今では実際の高校の授業に組み込まれているそうです。

記者…へえー（驚）



ダイビングの準備をする
宮岸君、野田君、藤浦さん（左から順）

謎の葉っぱが元気のもと

野田…八丈島はお年寄りがすごく元気だと思いました。八丈島のあちこちに植わっている口ベという葉っぱが売り物になるらしく、島内のお年寄りらはみんなそれを摘んで小遣い稼ぎをしていて、それが生きがいになっているということでした。

記者…なんだその葉っぱは？（注…後で調べたところによると、花束などに使われる観賞用の植物だそう）でも、お年寄りが生き生きしているのはよいことだね。

野田…そういう小さな収入でも、稼ぐことで生き生きできているようなので、夕張でもそう

いった仕事づくりができればいいと思いました。

藤浦…町長さんの話によると、お年寄りのチャリダーが島内にいるそうです…

記者…それは元気だね！

インスタ使って島の宣伝を

藤浦…八丈高校では八丈島を宣伝するために、インスタグラム（写真投稿を通じて交流するウェブサービス）を使用していて、八丈高校の生徒が外部指導者から撮り方を教わりながら、島内のきれいな風景などを写真に撮って、インターネットに広める活動をしていて…夕張でもやってみたいと思いました。

記者…インスタグラムに指導者がいるのか！

藤浦…はい、高校生の活動のほかにも、島で「インスタミート」というイベントを実施して、有名なインスタグラマー（注…インスタグラムをする人）を呼んで宣伝しているみたいです。

記者…やつぱり「映え」てた？

三人…はい（笑）

えっ？おじやれ…何だつて？

宮岸…あと、方言ですね。「なまら」が通じませんでした。

藤浦…八丈高校の女子からは、北海道弁ってかわいって。

記者…道民からしたら、普通なのにね。八丈島の方言は？

野田…オジヤリヤレ。

記者…おじや…おじよ…えっ？何て？

三人…おじやりやれ、「ようこそ」という意味です（笑）

三人はこの後、八丈島で学んできたことをまとめ、全校生徒や市長などに向けて発表するそう。いい発表になることを期待しています！



見学旅行を終えて 実行委員長に聞く！

夕張高校
チャレンジ・モア・スピリッツ
第十五号



今回話を聞いた見学旅行実行委員長の前田さん。夕張高校生徒会で書記長も務めている。

学年みんなで行く見学旅行。学校によっては修学旅行と呼ぶ場合もあるが、読者の皆さんにとっても学生時代の二を争う思い出になっているのではないだろうか？人によっては遠い昔の話かも？夜行列車に揺られたりだとか…

それはさておき、われらが地元夕張高校でも11月6日から4泊5日の日程で見学旅行が挙行されたとのこと（右ページにも書いているが）。今回のチャレンジ・モア・スピリッツでは生徒代表として、見学旅行実行委員長の前田さんに話を聞こうと思う。

いいなあ、見学旅行

記者…いいなあ、見学旅行…どんなところへ行ってきたの？

前田さん（以下敬称略）…神戸、大阪と、京都、奈良に行ってきました。伊丹空港に降りて、効率のよい順に回った形です。最初は、神戸のカワサキワールドへ行きました。

記者…カワサキワールド、行ったことあるよ！バイクが展…（長くなったので以下略）



京都の渡月橋前にて一枚。
みんな仲がよさそうでほほえましい。

学年の絆を感じられた！

記者…見学旅行の実行委員会って、どういうことをするの？

前田…出発前には見学旅行のルールを決めたり、班編成やホテルの部屋割りを決めました。

記者…実行委員会が班編成を決めたんだ！俺の経験からすると、あの子と一緒がいいだとか、ああでもないこうでもないといじめめそつだけど…

前田…全然！私たちの学年ではもめることはなくて、みんなが「誰とでも同じ班になってもいいよ」ということを言ってくれました。

記者…それはいい学年だわ…

前田…ホテルの部屋割りも、連泊するときであっても一日全部変えて、いろんな人と一緒にいるようにしていました。文句とかは一切出ませんでした。

記者…感心だなあ。

言葉が見つからなかった

記者…実行委員会をやってみて、印象に残っていることはある？

前田…班編成のときとかは特にそうでしたが、みんながお互いを思いあつて、「どうしたらみんなが楽しめるか」を考えていると感じたことが特に印象に残っています。

あとは、旅行の最後に、旅行中付き添ってくれた添乗員さんにお礼の言葉をいうときに、見学旅行が本当に楽しすぎて、感謝しすぎてどう表現したらいいのか言葉が見つからずに困ったことが印象に残っています（笑）

記者…よほど良い見学旅行だったんだね！

「夕張高校生はいま高校魅力化などで与えられたチャンスを逃さないように一人ひとりとたくさんチャレンジしようとしている」と語ってくれた前田さん。どんな挑戦しているんだよー！



前田…あとは、見学旅行中の班長会議の仕切りをやりました。

記者…班長会議、どんな話が出たの？

前田…みんな列になって行動するときに、珍しいものがあるという右に左に列が乱れてしまうことが反省点としてあげられていました。

記者…あー、気持ちはわかるなあ（笑）

ピコピコ画餅に帰せず! 「ピコピコシステム」効果検証特集

夕張高校
チャレンジ・モア・スピリッツ
号外



ピコピコシステム導入後、スクールバス平日部活便を運行の様子。

この日は乗車人数が2人のため、小型のタクシー車両で運行することができた。大型車両に比して無駄がない上に、燃料消費や二酸化炭素の面から、環境にやさしいという事実も特筆すべきであろう。

**公共交通維持につながる成果
年間約130万円の費用節減**

「ピコピコシステム」とは、スクールバスのうち、乗車人数が一定でない平日部活便（部活動後に乗車する便）と、休日便とをタブレットやスマホなどを用いて予約する（ピコ）システムであるが、このほどこ市において行った「ピコピコシステム」の効果検証の結果、年間約130万円の費用節減になることが判明した。

費用節減のメカニズム

費用節減の仕組みはズバリ、乗る人数を事前に「見える化」することによる運行の効率化である。例えば、事前に乗る生徒がいなかったことがわかれば運行しないという判断をすることができ、（空っぽで走らなくて済む）し、少人数であれば小型の車両で運行できるようになるのだ。

開発に夕張高生の参画

過去に「チャレンジ・モア・スピリッツ第三号（昨年の広報ゆーぱり12月号に掲載）」で報じたが、ピコピコシステムはその開発に当たり、5名の夕張高生（当時）の参画によって使い勝手の改善を行ったところである。

その甲斐あって、利用する側にとってみても使いやすいシステムが完成したが、システムが完成しただけでは足りない。

中高生たちに、それを使って予約する（ピコ）習慣が実際につかなければ、運行を効率化する、無駄を減らして交通を守る、という目標はまさに画に描いたモチとなってしまう。



システムを開発した㈱ユニ・トランドの技術者に質問する夕張高生（当時）。

こうした高校生の挑戦も決して無駄にはならなかった。

習慣づけるという難しさ

タブレットやスマホでできるとはいえ、今まで必要なかった予約（ピコ）はすぐに習慣になったかといえ、必ずしもそうではなかった。システム運用開始からしばらくは予約習慣が浸透せず、予約なしでの乗車やキャンセルせずに乗らないことが連日相次ぎ、あわやすべてが水泡に帰すところであったという。

しかし、運行に当たる丸北ハイヤー、夕張第一交

通の皆さんの努力（生徒ごとに実際の乗車・乗車しないを記録）をはじめ、中学校、高校の先生方や市職員による啓発・指導、そして何より利用者である中高生自身の心がけにより徐々に改善していったことで、成果が出せる水準まで習慣化することができた。

現在も、マナーの低下と向上を繰り返しつつもなんとかその水準を維持できているという。



学校に配置されたタブレットを使ってシステムを操作する夕張中学校の生徒。今ではこうしたことが日常の風景に。

「ピコ」ひと手間

社会を変えた

「ピコ」のこと。いくら手軽でもひと手間はひと手間である。しかし、その「ひと手間」が社会を変えたことは紛れもない事実である。この冬、冬の平日部活便が増便され、高校生がより部活動に打ち込める環境ができた。

この「ひと手間」が世の中を良くすることは何もスクールバスに限ったことではない。あらゆる分野や場面においてありうることでと筆者は思う。

中高生だけではなく、社会を構成するひとりひとりがそうした「ひと手間」を惜しまずにできるようにする必要があります。



真冬に常夏の邦へ 海外短期留学

夕張高校 チャレンジ・モア・スピリッツ 第十六号

夕張高校で初となる海外短期留学研修が、米国はハワイ州にて実施された。9日間の海外経験は生徒たちに何をもたらしたのか？今回のチャレンジ・モア・スピリッツでは、生徒へのインタビューを中心にその内容に迫っていく。

海外短期留学研修とは

夕張高校魅力化プロジェクトの一環で、ハワイ大学での語学研修や、ホームステイを経験し、語学力・コミュニケーション力を身につけ、広い視野を持ったグローバル人材を育成していくというもの。今回は8名の生徒が参加した。

なお、留学費用はふるさと納税を原資としている。

どうだった？短期留学

記者…初めての海外だったんだって？実際に足を踏み入れてみてどうだった？

清野さん(以下敬称略)…飛行機から降りてしばらくはハワイにきたという実感がありませんでした。お昼ご飯にハンバーガーショップに入ったときに、中でお客さんがアメフトを観戦して盛り上がりつつあるのを見て、やっと実感しました。



今回話を聞いた清野さん(左)。「滞在中はホームシックどころか、寒い北海道に帰りたくなかった」と楽しそうに語った。

記者…文化の違いを見て実感するつてよく聞くんね。

短期留学は大まかに言って前半はハワイ大学の語学研修、後半はホームステイだったみたいだけど、どんなことが印象に残ってる？

清野…前半で印象に残っているのは、「ミニEXPO」ですね。「ミニEXPO」というのは、私たちが日本文化や夕張の紹介などをハワイの人達にするイベントなんですけど、事前に人集めをするために、大学構内を歩いている人にインタビューをしながら招待状を渡していったんですよ。



「ミニEXPO」の様子。夕張の紹介や折り紙などを英語で紹介していった。声かけをした効果もあって、たくさんの人が来てくれたという。

記者…もちろん外国人に対してだよ。英語で話しかけるのは緊張したでしょう？

清野…はい、引き止めて話しかけなければならぬので最初は不安が勝っていて(笑)でも一人目には話しかけるともう誰にでも話しかけられるようになりました。

ハワイの人はすごく優しく、断られるにしても時間がないんだ、とか次に授業があるから、とか一言添えてくれたのが印象的でした。

記者…一言添えてくれたっていうのをちゃんと聞き取れたんだね。大したもんだ！

清野…あと、来てくれた人に夕張メロン入りのチョコレートあげたんですけど、こちらの評判も上々でした(笑)

記者…メロンのファンも作ってきたんだね！



語学研修の合間に、イオラ二宮殿内にて。艦「ミズーリ」艦内にも訪れることができた。

記者…ホームステイはどうだった？

清野…ホストファミリーが日系の血を引いていて、家で靴を脱ぐ習慣があったり、「ごちそうさま」などの言葉を知っていて、話しやすかったです。

記者…何とかなったかい？

清野…何とかなりました(笑)ホストファミリーにはあちこちと連れて行ってもらって、オアフ島は二周できたんじゃないかと思っています。

英語力向上を実感した

清野…ハワイから帰ってきて、模擬試験と英語検定を受検したんですけど、これまで読めなかった長文が読めたり、英語の会話が聞き取れたり、行く前より英語ができるようになったことを実感しました。模擬試験の時は、英語が読めるようになっていたのがおもしろくてちよつと笑ってしまいました(笑)

記者…成果が実感できたのはうれしいね！これからも頑張つて伸ばしていって下さい！

「せっかくのチャンスを活かさないのは協力してくれている先生や市役所の人に失礼だと思つてくれた清野さん。みんななどんどん挑戦していつてほしいと思います！」



↑本シリーズの記事のバックナンバーは「夕張高校魅力化プロジェクトポータルサイト」にて掲載中。このQRコードからアクセス！

夕張に多世代交流カフェを提案します！

夕張高校 チャレンジ・モア・スピリッツ 第十七号

昨年末から公設塾キセキノにて起業家教育事業である「ソーシャルアントレプレナー育成プログラム」が行われた。この事業に参加した生徒に実際に感じたことや、学んだことについて、インタビューを通して迫っていく。

ソーシャルアントレプレナー 育成プログラムとは

中小企業庁主催の高校生を対象とした起業家教育事業である。テーマは、地域の課題を高校生と地域住民が共に探求し、その解決策となるビジネスプログラムを検討するというもの。さらに、検討したプランを東京都で開催される全国起業家プレゼン大会にて発表をした。

今回は大会当日のプレゼンテーションを行った宮岸由海君（以下敬称略）に話を聞いた。

参加してみてもうだった？

記者…参加した理由は？

宮岸…きっかけは友達に誘われたからです（笑）自分の住む町の課題についてなので興味が出てきました。

記者…実際に考えてみて、どうだった？
宮岸…僕は女子高

今回話を聞いた宮岸君（中央）4日間に及ぶ検討を地域の大人と共に行った。



生が欲しいと思うものに注目しました。夕張では放課後に集まったり、寄り道できる場所がないことなどから友達と過ごす時間が少ないことが問題だと考えました。

記者…なるほど、地域の課題は発見できたんだね。そこからビジネスプランは作れた？

宮岸…課題から帰り道などに友達と過ごせて、地域の高齢者など多くの世代が利用できるカフェを作るという話になったんですけど、仕事に繋げるのがすごく難しく、同じ班の大人にアドバイスをいただきました。

記者…難しかったというのは具体的にどの部分なの？

宮岸…カフェ運営するための経費や、開業準備に必要な費用など、経営に関するものを検討するのが難しかったです。

プレゼンテーションに挑戦！

記者…夕張で検討したビジネスプランを東京で開催された起業家プレゼンテーション大会で発表したよね。人文字パフォーマンスはいつ考えたの？

宮岸…東京に着いてから考えました（笑）

前日練習の中で、インパクトの残る発表がいいんじゃないかと意見が出たので、思い切つてやりました。会場も盛り上がりつつあったし、自分たちが楽しむことも大切だと思つていたので、挑戦してみてもよかったです。

記者…楽しむのは大事なことだね！当日は運営側の手違いで間違つた発表資料が投影されて大変だったよね。もう一度発表できると思った時はどう思っていたの？

宮岸…資料を間違えられたと気付いたときは正直焦りました（笑）練習してきたものを全て出すことができなかったもので、2回目できるかもと聞いたときは、たとえ賞などは貰えなくても、正しい資料を使って自分の気持ちを伝えたいと思っていました。



大会でプレゼンを行ったのは全国から集まった10校。その中でも舞台上でパフォーマンスを行うなど工夫したプレゼンを披露。会場を大いに沸かせていた。結果は残念ながら受賞とはならなかったが、オーディエンス部門で4位に選ばれるなど、その思いは確かに伝わっていた！

起業家プレゼンを終えて

記者…起業家教育プログラムを終えての感想は？

宮岸…今回のプログラムは、正直考えるのが難しいと思う部分も多かったのですが、一緒に検討した大人の方に助けていただいたので、最後まで自分の意見を発表することができ、達成感がありました。また同じような機会があったら、積極的に参加しようと思えました。

記者…起業の印象は変わった？

宮岸…最初起業家教育プログラムって聞いてとっつきづらそうだなと思つたんですけど、やっていくうちに、自分の意見が生まれたり、わからないことも考えるのが面白いと思えるようになりました。

記者…わからないことが面白い、大したものだなあ…

「起業家教育プログラムを経験して、進路選択の視野が広がった」と語ってくれた宮岸君。これからも多くのことを吸収していきましょう！



↑本シリーズの記事のバックナンバーは「夕張高校魅力化プロジェクトポータルサイト」にて掲載中。このQRコードからアクセス！

より良い学校行事へ！ 生徒会執行部が変化に挑む！

夕張高校
チャレンジ・モア・スピリッツ
第十八号

春は別れと出会いの季節である。高校では3年生が卒業し、中学校から新1年生が入学する変化の季節ともいえる。今回のチャレンジ・モア・スピリッツでは、この時期に増える学校行事を支えている生徒会執行部について迫っていく。

生徒会執行部とは

生徒会執行部は、8名(2年生4名、3年生4名)で構成されており、生徒会選挙にて選出される夕張高校生の代表である。

活動内容は、生徒会行事の運営、企画などを行い、学校全体を盛り上げるために積極的な活動を行っている。

精力的に活動を行う生徒会の活動により迫るべく、生徒会長の山崎彩巴さん(以下敬称略)にインタビューを行った。



生徒会の打ち合わせの様子。部活動と掛け持ちしている生徒も多く、全員集まらない日であっても主体的に活動している。

大胆な行事の見直しを実施！

記者…最近はどうな活動してるの？

山崎…2月に3年生を生徒全員で送る予餞会を実施したのと、これからは新入生歓迎会に向けて準備しています。(取材時4月初旬)

記者…予餞会ってどんなことをするの？

山崎…お世話になった3年生に向けて各学年や生徒会が出し物を行う行事なんですけど、毎年ただのお楽しみ会になつてしまっている現状があったので、今年は開催意義を生徒会で議論して、今までの感謝の気持ちが伝わるような内容にしなければいけないと再確認を行いました。

記者…すごい大人な議論だね(笑) 具体的にはどんな内容に変更したの？

山崎…各学年の出し物を感謝の気持ちがより伝わる内容に変更するように要望しました。1年生は動画で、2年生はゲームを通じて感謝の気持ちを伝えました。

記者…なるほど！結構評判良かったんじゃない？

山崎…はい！先生方からも好評だったので、やってみてよかったです！

記者…新入生歓迎会ではどんなことをするの？

山崎…学校行事・先生・部活動紹介の司会進行が仕事です。ただ堅いイメージがあつて、1年



予餞会の様子。各学年の出し物の他に生徒会主催のレクレーションを企画。全ての生徒が楽しむことができたようだ。

生の印象に残っていないことが課題と感じていたんで、今年の歓迎会では楽しいと思ってもらえるような工夫を検討しているところなんです。

記者…色々考えているんだね。

山崎…活発な学校行事を通じて高校をPRしていきたいです。入学者は毎年少なくなつてきてますけど、今年は夕張中学校を卒業した31名のうち19名の生徒が地元の高校を選んでくれたので嬉しいですよ！

これからの目標について



山崎彩巴さん
話を聞いたのは
生徒会
の先生
今先生

記者…これからの目標を教えてください！

山崎…個人の目標としては、勉強や部活、学校行事など、やりたいことはたくさんありますけど、限られた時間の中でそれぞれベストを尽くしていきたいと思っています。

記者…生徒会長としてはどう？

山崎…地域へ活動を発信していきたいのと、様々なところから注目されているので、夕張高校の取組や頑張っている姿から高校生の元気を発信していきたいです。財政破綻とか関係ないと思うので！

記者…そうだね！今後の活躍を期待します！

春休みにも関わらずインタビューに答えてくれてありがとう！生徒会のさらなる挑戦を応援しています！



↑本シリーズの記事のバックナンバーは「夕張高校魅力化プロジェクトポータルサイト」にて掲載中。このQRコードからアクセス！